

# 都市フエの特徴的構造からみる伝統村落の位置と特色

グエン・ヒュウ・トン

(福田康男・西村昌也 訳)

## Location and Characteristics of the Traditional Villages Viewed from Huế Citadel Area

NGUYỄN HUU THÔNG

(Translation by FUKUDA Yasuo and NISHIMURA Masanari)

フエは都城として二つの独特な特色をもつ。一つめは政治都市という役割。これは経済的基盤を持たないのに京城になった軍事戦略性に基づいている。二つめは都市と農村の境目が曖昧な点である。都市内部やその周辺に作られた伝統建築は大きな庭園をもち緑が豊かである。ところが現在、フエは現代化にともなう都市化が進行中で、庭園が破壊され独特の景観が失われつつある。筆者はその景観を保持するために保護が必要であると説く。

キーワード：伝統村落, 都城, 自然, 伝統建築, 現代化

### 1. 都市フエ：形成と特徴的構造

フエは、繁栄した商業、商品交換、商業取引の中心地という出発点からでなく、変動に満ちた時代の政治、行政の中心地として建設された経緯をもち、ベトナムの各都市と比べても大変独特な特徴をもって形成された都市だと位置づけられる<sup>1)</sup>。

ダンジョン (ベトナム中南部)<sup>2)</sup> がフエを首府に、あとには首都に選ばれた理由として、以下の人為的

- 1) 広南阮氏の首府金龍から富春の時代まで、ベトナムは内戦に明け暮れ、フエは経済的利点より、行政や軍事上の政治的戦力をもつ土地としての使命を負わされていた。
- 2) 広南阮氏9代による立業は、順化-富春の発展の歴史と重なる。大越領になってから3世紀以上に亘って、順化は戦闘に明け暮れており、都市的生活中心地ができる余裕がなく、15世紀末から16世紀初頭にかけての化州の出現時には、防御的城郭のみで生活都市的なものは未出現だったと考えられる。1636年阮福瀾はようやく都市建設の扉を開き(金龍遷府)、1687年に阮福濬は、トゥイロイ(Thuy Loi)村に首府を遷したが、これが現在のフエ都城の西南に位置した富春である。1712-1738年の一時期、博望に遷ったものの、再び現在のフエ都城の東南に戻っている。阮

な要素によったと考えられる。

- その土地は選択基準をかなり完全な形で満たしており、風水分野の要求に応え、不動の王朝とさせるため都が建設された<sup>3)</sup>。風水の役割は単なる社会経済目的をかなえる物理面に留まらずに、自然や超自然現象を感じさせ、都市住民を保護する心理的側面や封建王朝の長期存続願望の側面を満足させる目的があった。フェの都における風水の役割は、通常の都市社会経済の目標に応えるため、また都の特殊な要求を満足させるために、阮朝の行動を完全に一貫させていた<sup>4)</sup>。
- 政治面からいえば、嘉隆帝は自分を支持した南部の地主や中流農民からあまり遠くない場所で、北部の後黎朝を慕う勢力に対し管理掌握ができ、また彼らと直接対立しない合理的な距離を確保できる場所として、フェを選んだ。
- 富春（フェ）は、広南阮氏が家業を継いできた土地であり、嘉隆帝は広南阮氏の後裔である。そのため皇族、元家臣、元帰属住民の支持が受けられた。
- 生活のなかに自然との調和を尊ぶアジア人の美観に適した、創造神が描く山水画のような景観をもつ土地であった。

いずれにせよ、そうした背景のもとで形成された都市の特徴は、賑わいのある商業都市の典型的な性質をもたなかった。都城建設当初の考え方においては、その主張者は風水を用いて建設するのを本心では意図していながら、建前上、景観的審美性や政治対策を決定要因としたのである。フェ発展の道のはそこから始まったので、四角い建物の建設は寄をてらわず、荘厳さを求めなかった。あるいは商業センターの賑わいをもとめなかった。そうした建築への考えが思想軸となり、長期にわたる建城企画設計が実現されていった<sup>5)</sup>。

---

福閣の時代の富春の壮麗さについては、金龍から褒榮、清河にかけて、フォン河の二つの洲土に発達して栄える都市として、黎貴惇の『撫邊雜録』(1776年)と後の『大南一統志』に述べられている。(Vài nét về lịch sử Huế: [www.kientruc-vn.org/hue.htm](http://www.kientruc-vn.org/hue.htm))

- 3) 風水にとって、都市設計は3つの相をもっている。1. 尋龍：土地を見つけ選択し、風水の形態学に沿って都市を建設する。地脈（龍脈）の運動方向（龍行）と停止点（山止）に基づいて、穴場がある場所を探す。通常、穴場は山、丘、川、小溪などの自然景観に基づいて、方位を定位する基準点が確定され、4つの方角域（左-右-前-後）が決定される。これは龍、虎、鶴、雀、あるいは龍、麟、亀、鳳の四霊に対応する。この4つの基準点は、経軸（鶴-雀あるいは亀-鳳）と緯軸（龍-虎あるいは龍-麟）と合わさって十字形となる。それは、ローマ都市建築におけるカルド（南北）軸、デクマヌス（東西）軸の2軸に相応する。2. 穴点：最も重要な穴は、前述の十字形の交点であり、そこに皇城-禁城を建設する。3. 立行：穴点と方位に基づいて、秘陰分金技術により都市設計の大まかな方向を決める。これにより都市の方形区画などが決まる（Lý Thái Sơn, 2003, Kỳ lân hí cầu trong Hội nghi chuyên gia “Đánh giá quỹ kiến trúc đô thị Huế” Huế, 8月, 37-38頁）。
- 4) Lý Thái Sơn, 前掲, 38頁。
- 5) 清河-褒榮や会安など港市の出現は、大越以前の中部ベトナムにおける地勢を利用した商業のあり方であり、広南阮氏時代の中南部における活力となった。“商業が、ベトナムの新王国において短期間で、北部ベトナムに対抗し、さらに南部へ拡張するだけに足る力をつけさせた。商業がなければ、中南部ベトナム発展は困難であったろう。人的資源、経済力、外交関係の未樹立などの困難以外に、異文化を有す別民族から継承した全く新しい土地での立業

阮朝は、中部の他の農業村落と変わらない農業村落の場所に、首府あるいは首都を建設した<sup>6)</sup>。しかしその造営を決める要素において、他にあったものは、皇族、皇帝の外戚、貴族、官吏、上流階級、知識人、芸術家、芸人、功労者の存在であった。彼らの多くは王朝から恩寵を受けた者たちであった。造営以降は居住景観も変化した。京城域の宮殿建築し、皇帝陵、王侯の邸宅、貴族の宮殿などの各建築形式が出現した。それらは首府フエの周辺にまるで衛星のように分布した。それらは、美しく奇をてらって上流貴族色に染まっているが、同時に人々の簡素な生活様式に近い自然と景観は、各村落の静寂な空間におかれて一つの建築様式の形を作り出した。この結合の仕方により、フエの建築あるいはフエの都城域は自然のひそやかさを思い浮かばせ、それらの相性のよさを示す。フエの人々は社会的階層を区別しない。一つの対応方法でいろいろな人と接し、緑の自然を基盤とすることを選び、建築物を通じて自然を最大利用している。自分たちの作り出した価値を尊重するためである。まさにその点が建築物と自然とを調和させ、もとはなかった人文的性質を生み出した。

美との遭遇から出発するフエの都市は、かなり独特な特徴的印象を作り出している。「歴史、空間における各建築形態のやわらかな転化は、都市という場所を作り出すのに決定的な役割を果たしている。わが国ではほとんど唯一の場所である。均一性、一体性、有機性などの各品位は都市の身体特徴となる」<sup>7)</sup>。

阮朝が存在していた期間において、フエ城建設に使われた空間を除いて、農業村落の基盤はフオン河沿いまたは以前の首府であるフースアン（富春）周辺に分布していた。朝廷は、フエ周辺の伝統村落地

---

ということが最も困難な条件に加わっていた。外国との交易は、中南部ベトナムの発展速度を決定し、阮氏の立業を早めた。東南アジア各国では、外国との交易は、富を得るための手段に過ぎなかったが、中南部ベトナムにとっては、生死に関わる問題であった。”(Li Tana 著, Nguyễn Nghi 訳, 1999, *Xứ Đàng Trong: lịch sử kinh tế xã hội Việt Nam thế kỷ 17 và 18*. NXB Trẻ, Tp Hồ Chí Minh, 85頁). たとえ、上記のことが事実としても、当地域で顕現していたことを受け入れ、継承したことより、商業や貿易の役割に対する認識を改めていく過程において、広南阮氏が出会った困難さは、歴代王朝の変遷を深く観察すれば簡単に察することができる。実際、こうした動きは、しっかりした基礎を形成しなかったし、発展を狙ったり、見方を深めたり、観念を改めるものではなかった。19世紀前半のベトナムの実像についてウッドサイド (Alexander Barton Woodside) が行った考察 [*Vietnam and Chinese Model. A Comparative Study of Vietnamese and Chinese Government in the First half of Ninetenth Century*. Harvard University Press, Cambridge, USA, 1971] では、阮朝がさかんに中国の封建モデルを模倣したことが描かれている。この方針は、多かれ少なかれ西洋に対して門戸を閉ざしたことと関係する。そのベトナムの貿易活動は、“昔からの中国的性質”である冷淡さとも呼べるもので、西山党に反抗していた阮暎（後の嘉隆帝）が西洋へ求援した時に淵源する。つまり、再び門戸を閉ざすということになったのである。そして、農業が民族全体の生存に、決定的役割を持つものとして肯定されたのである。潜在意識のなかに巣くっていた病理が再発したのである。

- 6) 都城建設予定地に入った農地は広大で、8つの村の農地にまたがり、とくにフースアン村の土地のほとんどが没収された。そのためこの村人たちは、朝廷から最大の補償を受け、都城周辺の農地を受給された。その周辺とは、フオン河左岸の Phú Hội 坊、Kê Vạn の各村落、右岸の Xuân An、Xuân Đài、Trường Giang、Trường Cời の各村落や、フオン河の Cồn Hên 中州における中流域の各村落であった。さらにはクアンチ、クアンビン省の幾つかの水田なども受給された。広南阮氏時代におけるその土地の重要性故に、富春正府と呼ばれ、西山朝時代、さらに阮朝の嘉隆期に都となり、京都富春と呼ばれ、富春の地名は現在のトゥアティエンフエ域全体を指す言葉として使われるようになった (Phan Thuận An, 1999, *Kinh thành Huế*, Thuận Hóa 出版社, 86頁)。
- 7) Hoàng Đạo Kinh, 2002, *Kế thừa và tạo lập bản sắc kiến trúc đô thị trong phát triển*. “Tạo lập diện mạo kiến trúc đô thị đặc trưng cho thành phố Huế” 会議発表原稿, Huế.

域において威厳のある荘重な庭園をもつ神社（デン）、廟、殿、楼台、亭閣、南郊壇、塔、皇帝陵、国子監、王侯の邸宅、闘場（虎園）などの施設を数多く建設した。ここでいいたいことは、それらはお互い決して分離しなかったことである。正しく言い換えるなら、各建築物がフェ中心地に付帯する伝統村落の景観を損なわずに、自らの特別な位置を確定することにより景観の試練を乗り越えようとした。それらは、我々の中に建築の構造方法と精神の対立から生じる調和性不足や無秩序な感覚を決して生み出さなかった。ただ総体のなかからいくつかの単体要素が出現し、その単体要素が自然と総体に付着した。

20世紀初頭、フェには多くの植民地建築物が出現した。建築材料や技術方法は伝統的処理の枠を超えた。この建築群の景観の大部分はフォン河を隔てたフェ城の対面に建てられた。当時の国内、国外の建築師たちは、現在の視点で建設設計上行くべき項目を見直したとしても、すぐれて綿密であった。元来あった精神はどこへも行かずフェの総体は維持された。それらは独立した建築群を自らのために独自に作り出さないのみならず、上手に総体に結合させて、街角、周辺の間、都城、村落居住区の一連の景観において、多くの特色をもつ結合を作り上げた。各部位は、都市建築空間が山河や草木の暖かさに包まれるなかで、お互い入り混じりあい、補いあって、転化されるに至った<sup>8)</sup>。

## 2. 都市フェの特徴的構造からみた伝統村落

まさに中部の狭小な地形からくる多様さが、フェに伝統村落建築様式を作らせ、それは自然景観と居住環境に対する人々の豊かな対応方法が示されている。そのなかの異なった空間と地形に、フェの都市周辺の連続した居住痕跡が認められる。しかしながら我々は依然として、自然と一体化するきめの細かな純朴な人たちの精神には見慣れた感覚をもっている。

フェの都市はフォン河を血管の流れとして選び、自らの体の活力を作った。都市周縁あるいはその間にある村落は、主に川べりの土砂層上に分布する。その村落には、庭に緑の木々がありそれらは連続し、街に庭、庭に街という公園都市、庭園都市の印象を作り出している。

我々は、キムロン（Kim Long）、グエットビュウ（Nguyệt Biều）、ルオンクワン（Lương Quán）、ズオンスアン（Dương Xuân）、ヴィーザ（Vĩ Dạ）のような周縁地域と同様に、庭のある家が城内に現わ

8) Nguyễn Đình Toàn が『Kiến trúc thuộc địa ở Huế (フェの植民地時代建築)』を著したが、ここでは、フェの植民地期建築を、形式、様式などに従って、以下のように分類している。

- 前期植民地建築様式：古典建築様式で、丸屋根をもつ渡り廊下、横木を渡した壁、小さな間仕切りなどが特徴。
- 新古典建築様式：全体から細部に至るまで対照性を厳格に実施。主屋は、屋根を突出させるか、凹み部分を有することで、強調される。建築の主軸となる柱、壁、扉などに、他所より印象的な装飾を施す。
- 在地建築様式：傾斜屋根をもつ。屋根支えの木組、壁、瓦屋根、雨よけのひさしなどが漆塗りされる。
- モダン建築様式：古典的柱群、絞り形態、簡素なライン、新建築素材、特に鉄筋コンクリートの利用が特徴的である。他に傾斜屋根、あるいは平屋根、窓枠の簡潔で真っ直ぐな水平ライン、直角の強調、大きく開く扉、ガラスの多用、格子窓、突き出た鋳造製のバルコニー、seno 式の排水管などの特徴も持つ。
- 欧亜結合様式：ベトナム建築とヨーロッパ建築を結合させたもの。その特徴は、ひさしのあるエントランスや格子窓に用いられる多層傾斜屋根構造に現れている。また、壁、廊下、バルコニー、掛軸、屏風の上の装飾文様はすべてフェ式文様である東洋建築様式による（Nguyễn Đình Toàn, 前出, 109-110頁）。



れるのは全く自然な結びつきだと感じる。自然発生村落（Xóm）の外にあたる、フオン河両岸に沿って続く伝統村落には、緑の茂みに王侯や上流階級者の邸宅庭園が入り組み<sup>9)</sup>、さらに亭、廟、寺、市場といった共同建築物とともに共存する。宮廷の痕跡をもつ微細な特徴は、梁をもつ伝統家屋のように調和しながら存在している。

フエの宮廷建築と民間建築の二つの流れの間にある薄い隔たりは、それ自身が調和を作り出しており、城内とその周縁地域との具体的な境目を描くことは困難である。すべての建物が緑木の覆いにより目立たないようにしてあり、庭園の葉や花がまわり一面を覆い、住居内装に意識的にならずにすむ風通しのよい低い建物になっている。

ここでの緑木は、ある公園と他の公園の間やある村と他の村の間を共通化し、両者をつなぐハイフンの印である。ある観点からすると、それがフエの都市建築の肖像画になり、フエは村という平易な特徴をもつ、まるで一つの大きな村落のようにみなされるのである。しかし、過去の栄華の時代にあった尊大で気高い性質や権力的で風流な性質もあわせ持つ。

自然と連結する各要素を結合させることは、異なるものが少し入り混じることになる。ましてや家の主人の身分間には対立がある。しかしながら、景観や構造面では少しも対立し合わない。私にいわせれば、それがまさにフエの都市空間の性格であり、気質であり、容貌である。

封建時代の首府首都の役割として、阮朝は城都の内部およびその周辺地区に各種の官廠、匠局を設立し、中央朝廷の直接間接の管理をうけた。それらは現在、次のところに残された多少の痕跡を見ることが出来る。ディアリン（Địa linh）の匠局（Nê ngôa tượng cục）にある多くの瓦窯、ナムタイン（Nam Thanh）の官窯地区（xóm Lò Bộ）、鑄匠司（Chú tượng ty）とよばれたフオンドウック（Phường Đúc）の川べりの5つの村落沿いにある青銅鑄造工廠、ティエンノン（Tiên Nôn）の漆金箔などを製作した漆匠。その他に、ティエン（Thanh Tiên）、ライアン（Lại Ân）、アンチュエン（An Truyền）のような生計を立てるため農業と結びついた伝統手工業がある。ここでは、村人の需要に応える以外に、彼らは生産品の品質を上げて朝廷の注文や都周辺に集まっていた貴族層、官吏、上流階級の要求に応えた。

封建国家が衰弱するとき、多くの朝廷の工廠や官廠がだんだんと整理され、規模や生産基盤を縮小させられ、運行原則のように、時間をくだるにつれて伝統民間手工業村の軌道へと収束させられた。現在この地域はフエ地域の伝統村落の一般的な風景のなかに溶けこんでしまっている。

歴史上、フエの行政や政治の中心地形成は、商品交換、商業の要求によって地方の町（thị tứ）を賑やかな生活区域に作り変える状況を提供した。商業の軸は時代ごとの客観的要求に従って場所を移してきた。フォーロー（Phố Lữ: タインハー [Thanh Hà] の俗称）から、バオヴィン（Bao Vinh）、ジン市場（Chợ Dinh）、ザーホイ（Gia Hội）、ドンバー（Đông Ba）への移行のごとく、いくつかの街を出現させた。ここで書き留めておくに値することは、これらの地方の町の多くが、伝統的設計や伝統的構造から離れてただ一人よがりの囲みの部分をもたず、また建物の空間処理方法、大きさ、高さにおいて近隣地

9) 数多くある皇家の親族や公主の居宅である府や第は、皇城の周りに数多くの官吏の営署などと混じり合って建設され、王家と民間の両方の性質が混じり合い、フエの風格、様式を作り出している（Vĩnh Quyên: *Qua miền phủ đệ* <http://1.laodong.com.vn/sodara/xuan2003/vhvn/50.htm>）。

区との関係から分離しない構造的特徴を維持している点である。つまり、「お互い一致して思いをなす」という意味の「本合奏意為 (bản hợp tấu ý vị)」が実行され、「琴弓の音階を間違える」という意味の「宮壇落調 (cung đàn lạc điệu)」は起こらずにすんだ。

そこで、分域、分層、分類の観点から考えるなら、少し強引だとしても我々は都市フェを地区ごとに分けた統計表を作成できる。そのなかには、都城京城地区や、バオヴィン (Bao Vinh)、ジン市場 (Chợ Dinh)、ザーホイ (Gia Hội) などに見られる <sup>ニャー スオン</sup> nhà rường と呼ばれる伝統建築による町屋地区があり、また現代材料を用いたドンバー (Đông Ba)、アンキュウ (An Cựu)、ベング (Bến Ngự)<sup>10)</sup> 等の地区、さらには20世紀前半の植民地風建築地区がある。植民地風様式は森の庭園地区である静寂な都市周縁部を含め、20世紀後半の建築に多くの影響を与えた。しかしながらはっきりしていることは、伝統村落とともにある都市と都市周縁部の境目の近さと曖昧さとが、フェに固有の特徴と様相を作り上げたということである。

フェ周縁の伝統村落はまさに都市に溶け込み、昔の首都がもっていた弱点は村落のなかにもぐりこんでいる。それらすべてが必要な中和作用を作り出し、自然と自然を愛する人をつなぐリンクを色濃く塗り込めている。それは沈静さと奥ゆかしさであり、自分のことばかり言うのではなく他人を気づかう性向をもたらした。

### 3. 村落と都市をつなぐ：弱点に対しては不動の保護が必要

多くの要素が都市フェの特色とその図像を作り出す一方、伝統村落－伝統村落性質は都市内部に隠れたり現れたり、あるいは結合して都市周縁の特殊空間となる。それは、まさに有機的な一部分であり、都市フェの中心地から切り離せない。この特徴は、生活力や人と自然の結合における魅力を生み出し、まさしく目に見えない協調が豊かな印象をもつ地域の容貌を生み出す。

私の考えでは、この連結に破壊の芽生えが生じている。それらは、ある古い芸術作品に穴をあけ、破壊し、欠損させようとしている。作品は長い間を経て選択されてきた大切なものであるが、今や人と自然の間や、自然空間とフェ文化成果の間の調和ある合奏を破り捨てようとしている。

どの都市の拡大も通常異なった発展過程をとる。我々がもしその検討を適切に行わなければ、もちろん景観のみならず自分たちの惨めな姿とともに命の代償まで支払わなければならない。

いずれにせよフェの庭付き住宅は小さく分割されている。庭は残せるが、庭園のようなものでなく、ごく小さな庭になるか、あるいは庭は都市から切り離されて、お互いが離れたものとなっている。現代風都市建設を選び、建設空間を解決することが、どこの、どのような要求に基づくものなのだろうか？ フェ住民やフェにやってくる観光客は、フェの相反する建築景観に対し衝撃を受けるだろう。それに対しては、都市設計者や建築施工者、歴史、文化、芸術などの各分野の学者による知恵を働かせた計算が必要である。

都市と密接に結びついた伝統村落の状況は現在深刻な試練に直面している。古い梁をもつ伝統家屋の

10) 朝廷の船着場の意味

多くは、家主自身が問題を処理しなければならなくなっている。彼らは常に白蟻、木食い虫の害、木材腐朽、家中が暗い、湿っぽいなどの諸問題に対面して疲れきっており、さらに家の事情に困難が伴うとなれば、現代の便利さの魅力が、家主に毎日いつ時でも今あるものと将来あるものの間での比較を強要させている。そして若い世代の家主の場合、現代的内装を使用する要求が彼らにとって大事であることを考えてみれば、その圧力はもはや排除できない。

大同堂（đại đồng đường）という一つの家に3、4世代が一緒に住むフエの大家族が消滅寸前の段階にあり、それにかわる小家族の出現は完璧な庭園を細切れる地片にさせては始めている。

それによって都市周縁部の村落の家のなかに、現代的な高層建築物が建っている。緑地は広々として周到な計画に従って処理され、田舎の規範性をもった林庭の性質から切り離されている。伝統職人村落の家々でおなじみの特徴は現代構造にとって変わられ、都市内の庭園空間は日々の土地価格の上昇によって細切れにされる危機に直面している。そこでの緑化庭園の規格の一部は、日本化であったり中国化であったり、またはヨーロッパ化であったりする。すべてがフエの特徴的独創性を削り取る表現となってしまうのである。

フエの都市図における伝統村落は、位置、構造、素材から建築空間様式にいたるまで絶妙に配置されているのである。そのため、村落は一つの結合体をつくるための単なる結合される胚の一部という役割だけでなく、まるで体の各部位が身体と精神が一緒になってはじめて生きていけるかのように、他の村落とともに溶け込んでいる。

フエの都市は、都城内や通りの範囲内によるだけでなく、河川の流れ、川の両岸にある緩衝帯的公園の足元に生える芝生、木々の茂みに隠れる緑の庭園によっても確定される。もちろん伝統村落の建物は生態の均等をもたらす、あるいは外観面の弱点を補強するという部分だけでなく、もともと都市の中心地から外に向かって徐々に示されており、フエが他のどこの都市とも異なる姿を作り出している。伝統村落建築を尊重、保護しない、あるいはどんな理由によるにせよ、それを変容させることは、国内外の旅行者が褒め称える都市フエの美しく独特な印象を失わせることになる。

フエは、独自の道で現代化をすすめなければならない。なぜなら都市の現代化は、決して天を突くような家を作るような弱点ばかりをもつわけではないからだ。現代の建物は四角形の立方体が連続するが、そうした建物でも規模が小さくひかえめで、簡素さや細やかさをもたせることは可能であり、それが住みたくさせるために必要な要件となる。それはまた、山水画の尊栄さや自然が与えた緑を知るように、また静寂が取り囲むことの大事さを知ることでもある。都市周縁部の伝統村落があふれんばかりに個性的であることと同じである。それがまさしく揺るがない構造であり、すべての人たちの心のなかにやどる都市フエの特色なのである。

